

●ルイス・ブニュエル監督作品●

欲望のあいまいな対象

SERGE SILBERMAN PRESENTE

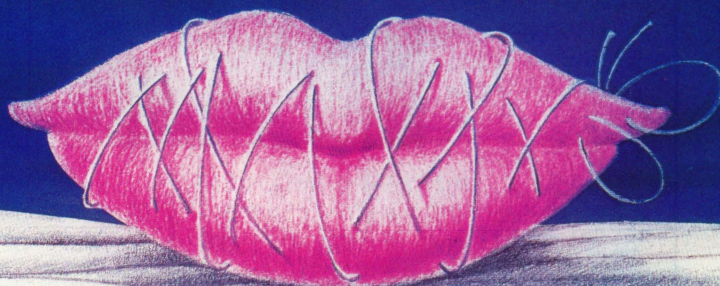


Cet Obscur Objet du Désir

美しく 妖しく
誘っては手のとどかぬ
若きコンチータへの
狂気的愛

映画史上初の
[2人1役]！

巨匠ルイス・ブニュエルの最後の傑作
日本初公開！



Ferracci

監督ルイス・ブニュエル
原作ピエール・ルイス(邦訳 角川文庫刊)
脚色・脚本・台詞ルイス・ブニュエル/ジャン・クロード・カリエール
撮影エドモン・リシャール
美術ピエール・ギュフロワ
音楽フランク・バーム(ワルキューレ)
(指揮カール・ベーム 演奏バイロイト祝祭管弦楽団)
製作セルジュ・シルベルマン
GREENWICH FILM PRODUCTION+
LES FILMS GALAXIE(パリ)+
INCINE(マドリッド)製作●フランス・スペイン合作●カラー

フェルナンド・レイ

キャロル・ブーケ●アンヘラ・モリーナ

ジュリアン・ベルトー●アンドレ・ヴェベール●ミレナ・ヴコティッチ



謎と神秘、自由と狂気の愛を追い求めた巨匠の遺作――

欲望のあいまいな対象

○ルイス・ブニエルの監督作品○Cet Obscur Objet du Désir(フランス・スペイン合作)

日本初公開の「アンダルシアの犬」(1992「フランス」と「銀河」(1968「フランス」)、そして再公開の「ブルジョワジーの秘かな愉しみ」(1972「フランス」)、「皆殺しの天使」(1962「メキシコ」)、「自由の幻想」(1974「フランス」)、「ピリディアナ」(1961「スペイン」)、「哀しみのトリスタナ」(1969「フランス」)、「小間使の日記」(1963「フランス」)は、いずれも巨匠ルイス・ブニエル(1900年2月22日スペイン生まれ、1983年7月29日メキシコで他界)の、フランス、スペイン、メキシコを舞台とする半世紀の巨大な歩みを代表する傑作群だが、「欲望のあいまいな対象」(1977「フランス」)こそは、巨匠の遺作、待ちに待たれた傑作の日本初公開である。

時は現代。
不思議なデロが日常茶飯事のように頻発している。
スペインのセビリアからパリに向う汽車のタラップから、ブルジョワ紳士マチュー・ファベールが追ってきた若い女性にバケツの水をあびせる。紳士にあるまじきふるまいだが、愛していたからですな、と指摘するのは同席の心理学教授。たしかに、マチューが生涯で初めての狂おしい恋に燃えたその女は、最初、彼のバリの邸に小間使として入ってきたアンダルシア生まれの女コンチータだった。



何でも思いのままになる筈のマチューなのに、コンチータは、彼の愛をうけられるかにみえて、するりと彼の腕を逃げる。彼女は処女よと言いつつ、誘うかと思えば、厳重なコルセットで身を守り、マチューに絶望的な嫉妬心を燃やさせながら、来ては去り、去ってはまた来る。無垢な聖女のように、残酷な魔女のように、姿をあらわすたびに変わりに変わる処女コンチータに翻弄されながら、パリに、レマン湖畔に、セビリアに、悪夢のように続くマチューの愛の旅……。

原作はビエール・ルイスのへ女とあやつり人形で、ディートリッヒ主演の「西班牙狂想曲」(35)やブリジット・バルドー主演の「私の体に悪魔がいる」(58)などに次ぐ5度めの映画化。

この企画はブニエルが56年から20年もあたたため続けたもので、実現をさまたげていたのは、コンチータの複雑な性格を演じきれる主演女優がみつからないことだった。実際に脚本を書きながら、ブニエルとカリエールは2人1役のアイデアに何度もいきつくが、ふだんから冗談ずきで知られるブニエルのことゆえ、これが冗談と思われては心外と、まじめに自粛する。そして決定した女優でクランクインするのだが、ブニエルは数日で撮影を中止してしまい、プロデューサーに、まじめなアイデアであることを説得して、念願どおり、前代未聞の2人1役を実現、快調に撮影して完成した。全篇、77才の作品と思えぬ若々しさと明るさにためられ、随所で笑いが涙を呼ぶ快作である。

コンチータを演じるふたりの女優はキャロル・ブーケとアンヘラ・モリーナ。ブーケはパリ生まれで20才でこの映画でデビュー。やがて、「007/ユア・アイズ・オンリー」でボンド・ガールの仲間入りする知的なグラマー。モリーナは今ではスペインを代表する国際的女優で、この映画以後、ひく手あまたの肉感的な女優。パリ公開時には、何も知らされていない観客の2人に1人は、コンチータを2人の女優が演じている事に気づかなかったという見事なコンビぶり。

欲望のあいまいな対象を追い求めてやまないマチュー役は、ブニエル映画の看板役者、フェルナンド・レイ。おなじみのジュリアン・ベルランドをはじめ、ミュニ、ジェシエール、ミュッソン、ヴコティッチら、名優たちが、ほんの端役にいたるまで脇をかね、出演しそこねたミシェル・ピコリに至ってはマチューの声の役をゆずってもらって参加した。スタッフもまた、製作のシルベルマン、脚本のカリエールをはじめ、ブニエル映画の常連とはいえ、美術のギュフロワ、撮影のリシャールらそうそうたるメンバーが結集している。コンチータの衣裳はクロエ、マチューの衣裳はスマルト。音楽は、ブニエルと

監督	ルイス・ブニエル	美術	ビエール・ギュフロワ	マチュー・ファベール	フェルナンド・レイ	心理学の教授	ビエラール
原作	ビエール・ルイス	編集	エレヌ・プレミアニコフ	コンチータ	キャロル・ブーケ	エル・モレニート	ダビッド・ローシャ
	(邦訳 角川文庫)	録音	ギイ・ヴィレット		アンヘラ・モリーナ	バーの支配人	クロード・ジェジョール
脚色・脚本・台詞	ルイス・ブニエル/ジャン＝クロード・カリエール	音楽	ワーグナー(ワルキューレ)	マチューの従兄の判事	ジュリアン・ベルト	管理人の女	ミュニ
撮影	エドモン・リシャール	製作主任	ウリ・ビカル	執事マルタン	アンドレ・ヴェパール	レースを縫い合わせる女	ベルナール・ミュッソン
		製作	セルジュ・シルベルマン	パリに帰る婦人	ミレナ・ヴコティッチ		アウグスタ・カリエール

GREENWICH FILM PRODUCTION+LES FILMS GALAXIE(パリ)+INCINE(マドリッド)製作/1977年度作品/フランス・スペイン合作/イーストマンカラー/ヴィスタサイズ(1×1.66)/1時間44分/5巻/2,835m

11月3日(祝)よりロードショー
特別鑑賞券1200円絶賛発売中!
(当日一般1500円、大・高生1300円のところ)

有楽町側
2826
212
スバル座

平日 12:20 2:30 4:40 6:50 日・祝 11:50 2:00 4:10 6:20
昭和59年度芸術祭参加作品
夢と超現実の祭典
ブニエル代表作連続ロードショー
有楽シネマ 絶賛上映中

BOW
パウンシリーズ
フランス映画社提供